



コンクリート技士を取得して

浅岡 恵子

現在私は、コンクリート調査、診断、試験等を行う建設コンサルタントの会社に勤務しています。入社して約6年の歳月が過ぎましたが、この会社に入社する以前は、まったくコンクリートには無縁の業界で、違う職種に携っていました。ですから、土木やコンクリートに関する勉強も学生時代に経験したことがありませんでした。

入社した当初は、事務業務に大差はないだろうとあまり深く考えていませんでしたが、コンクリート調査の図面の作成や写真整理に加え、徐々に簡単な試験業務を任せられるようになり、自分でも圧縮強度試験等が何を意味するものか全くわからず、結果の数値だけをだしていることに不安を抱くようになりました。

事務業務が主でしたので、ごくたまに行う試験業務については、作業手順を間違わず結果をだせば問題はないだろうと安易に考えていましたが、出した数値が規定範囲内なのかもわからず上司に結果を委ねていることに、自分の仕事に対する無責任さを感じはじめました。

そんな時に、上司からコンクリートを理解するために、最初に取得するには適当な資格だろうと、このコンクリート技士という資格があることを教えていただきました。私にとっては初めて耳にする資格でしたので、自分なりにどのような資格なのかを調べてみました。

コンクリート技士は、法で定められ

た資格ではありませんが、(社)土木学会「コンクリート標準示方書」、(社)日本建築学会「建築工事標準仕様書 JASS 5 鉄筋コンクリート工事」において、「コンクリートの施工に関する十分な知識を有する技術者」と位置づけられており、資格者に求められている内容は、土木学会コンクリート標準示方書(設計除く)・JASS 5・コンクリート用材料の品質、試験および管理・コンクリートの配(調)合設計・コンクリートの試験・プラントの計画管理・コンクリートの製造および品質管理・コンクリートの施工・コンクリートとコンクリート構造物に関する基礎的な知識と理解力・関係法規¹⁾と記載されていました。

この資格を取得すれば、コンクリートの基礎知識を身につけ、現在の業務も理解して従事することが出来ると思います、受験を決意しました。

もちろん現在の会社に入社するまで、コンクリートに全く関わったことのない私にとって、資格取得は簡単なものではありませんでした。参考書には初めて目にする用語が多々あり、なかなか頭に入ってきません。

しかし、日々携わっている業務に密接に関係していたため、勉強と業務を関連づけることで吸収する努力を続けました。資格取得後は、各試験にどのような意味があるかも理解でき、今まで携わっていた業務の奥深さを知ることが出来ました。

コンクリート技士の勉強は私の主の

業務であるコンクリート調査の図面作成にも大きな意義をもたらしました。コンクリートの劣化について学んだ事により、写真から外観(劣化)状況の図面を作成することができるようになり、劣化の状態を判断するための試験の必要性も理解できました。コンクリート調査等は、女性が従事することが少ない業務だと思われましたが、資格取得後は、現場調査もさせていただきます。

コンクリート業界も日進月歩、様々な研究により日々進歩していくものと感じています。資格を取得したことは、技術者としてスタート地点に立てたと認識していますが、これからも仕事を続けていくためには業務を通し有用なことを日々吸収しなければいけないと考えています。

技術者として一步を踏み出せたことを自分の糧として、微力ながら少しでも会社や社会に貢献できるよう日々努力していきたいと思っています。

参考文献

- 1) ホームページ 資格ガイド <http://www.shikaku-gaido.com/>



(あさおか・けいこ)
(株)シーテック 主任